

市、教育委員会及び民間と連携したグローバル社会で活躍する人材育成の取組 ～小・中・高で取り組む 10 年間のオンライン英会話の実践～ 夕張市立夕張中学校 学級数 6 (校長 広島 孝)

I 実践テーマの趣旨

本校では、国際社会に生きる日本人として、生徒が主体的に社会の形成に参画できるよう、夕張市が推進する地域再生計画に基づき、コンピュータ教室にWebカメラとヘッドセットを整備し、平成30年度から令和3年度までの4年間、夕張市、夕張市教育委員会及び民間学習塾と連携したオンライン英会話の実践等、英語教育の充実とグローバル人材育成に取り組んだ。今年度については、夕張市内の小・中学校でGIGAスクール構想の下に整備された1人1台端末を活用している。

II 実践の概要

1 取組の全体像

夕張市では、平成30年度から地域再生計画の1つにグローバル人材の育成を掲げ、地域の教育環境の魅力化の1つとして、大手民間学習塾と連携した小学校第3学年から高等学校第3学年まで10年間の英会話の一貫教育を推進している。

2 教育課程への位置付け

総合的な学習の時間における探究課題として「国際理解」を設定するとともに、各学年の外国語科「聞くこと」「話すこと（やりとり）」の領域として、単元ごとに学習した内容を活用する場面を位置付けている。

3 1単位時間の流れ

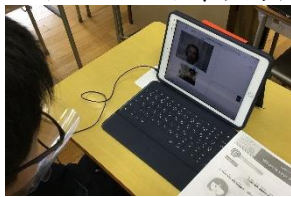
過程	学習内容
導入	A L Tによるアイスブレイク等
展開	ネイティブ・スピーカーとの1対1の会話
終末	本時の振り返り

4 ネイティブ・スピーカーとの会話

本校においては、各学年月2回、年間20回、海外在住のネイティブ・スピーカーと、オールイングリッシュでのオンライン英会話を実施している。

実施に当たっては、会話に集中できるように個別にヘッドセットやイヤホンを使用するとともに、新型コロナウイルス感染症対策として、マウスシールドをつけるなどして実施している。

使用する英会話のテキストについては、大手民間学習塾と連携して作成している。



【1人1台端末を活用してネイティブ・スピーカーと会話をしている様子】

5 実用英語技能検定（英検）受検者及び合格者数

本取組が始まった平成30年度は実用英語技能検定の受検者が年間14名（内合格者10名）であったが、令和3年度は第2回（10月現在）の時点で受検者が24名（内合格者5名（第1回の合格者数））と増加している。

また、平成30年度から令和2年度における3年間の3級合格者は9名となっている。

		年間延べ受検者数（名）		年間延べ合格者数合計		年間合格割合（％）	
				3級合格者数（名）		3級合格割合（％）	
H30年度	第1回	14	10	4	71.4%	29%	
	第2回						
	第3回						
R1年度	第1回	11	10	3	90.9%	27%	
	第2回						
	第3回						
R2年度	第1回	11	10	2	90.9%	18%	
	第2回						
	第3回						
R3年度	第1回	24	5	0	50.0%	0.0%	
	第2回						
合計		60	35	9	58.3%	15.0%	

III 成果と課題

○ ネイティブ・スピーカーと会話する機会を、年間を通して計画的に継続することで、英語で自分の思いを表現することに対する抵抗感が減少し、積極的に英語で会話できる生徒が増加するとともに、英語に興味を示す生徒も増加し、実用英語技能検定の受検者数の増加につながった。

● 実用英語技能検定3級合格者の割合が減少傾向であることから「聞くこと」「話すこと」に加えて「読むこと」「書くこと」の資質・能力も高められるよう外国語科の授業改善を行う必要がある。



【使用するテキスト及び ICT 機器等】



【アイスブレイクの様子】

【実用英語技能検定の年間受検者及び合格者の推移】